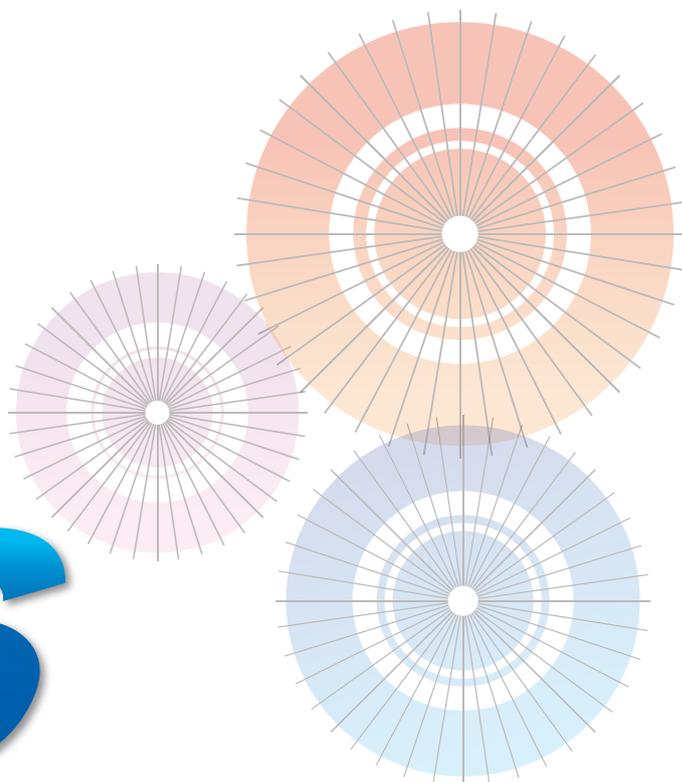


JAAAS



経営行動科学学会 第20回年次大会

大会プログラム



The 20th Annual Convention of Japanese Association of Administrative Science

**経営行動科学学会
第20回年次大会**

2017年11月4日~5日

主催
同志社大学 / 京都大学

会場
同志社大学
今出川キャンパス

経営行動科学学会 第20回年次大会プログラム

拝啓 爽秋の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、20 回目の節目となる年次大会を、日本の古都、京都に位置する同志社大学で開催される運びとなりました。ここに年次大会プログラムをご案内申し上げます。

本大会では、大学院生セッションを含めた 49 の研究・事例発表に加え、2 つのシンポジウム、4 つの特別セッションが出揃いました。シンポジウムについては、11 月 4 日には「AI・ロボットが切り拓く未来と経営行動科学」、11 月 5 日には「組織における個の『分化』と働き方改革」が予定されており、経営の現場でいま起こっているトレンドと、それに対する経営行動科学の役割について、実務家と研究者を交えたディスカッションの促進を狙いとしています。一方、今回新たに企画をした 4 つの「研究能力強化セッション」においては、質の高い経営行動科学研究を推進するため、会員の研究能力の向上を図ることを目的としています。

また、近年の趨勢に倣い、大会論文集は USB 配布をメインとすると同時に、会場内でもインターネット接続を通して大会論文集をダウンロードできる体制を準備し、参加者の皆様の利便性を高める工夫をしております。

それでは、今年の年次大会に多くの会員の皆様にご参加くださるよう、大会運営委員会一同心よりお待ちしております。

敬具

2017 年 9 月

経営行動科学学会第 20 回年次大会運営委員会
共同委員長 藤本哲史・関口倫紀

1. 会期・会場

(1) 会期：2017 年 11 月 4 日（土）・5 日（日）

(2) 会場：

(メイン会場)

同志社大学今出川校地今出川キャンパス良心館 1・4 階

〒602-8580 京都市上京区今出川通り烏丸東入

(懇親会会場)

同志社大学今出川校地室町キャンパス寒梅館 7 階 French Restaurant Will

〒602-0023 京都市上京区御所八幡町 103 烏丸今出川上る西側 (Tel/Fax 075-251-0200)

会場までのアクセス

京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅 3 番出口 徒歩約 1 分

京阪電車「出町柳」駅から徒歩約 20 分

会場へのアクセスについては以下のサイトでもご確認いただけます。

<https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/imadegawa.html>

2. 受付

(1) 受付時間・場所

以下のとおり「予約前納者受付」と「当日参加者受付」を設けております。発表会場に入られる前に必ず受付手続きをお済ませください。

日時：11月4日（土）8:30～17:20

日時：11月5日（日）8:30～16:00

場所：両日とも良心館1階

(2) 参加申し込み及び諸経費

大会に参加される方は、学会ウェブページ(<http://www.jaas.jp/conference/conference-application>)を通じて参加申し込みをした上で、同封の郵便振替用紙にて**10月13日（金）まで**に参加費等をお振込みください。参加費には論文集のデータが入った USB メモリ代を含みます。懇親会への参加、紙媒体の論文集を希望される方は、それぞれの代金を加えてお振込みください。この郵便振替用紙が大会参加申込書を兼ねておりますので、紛失されないようご注意ください。なお、振込期日を過ぎますと口座の閉鎖により事前振込ができなくなり、それ以降は当日支払となります。

会員区分	費用の種類	事前振り込み (10月13日（金）まで)	当日支払
会員 (一般)	参加費 (USBメモリ代を含む)	6,000円	8,000円
	懇親会費	5,000円	6,000円
	紙媒体の論文集代	4,000円	5,000円
会員 (大学院生)	参加費 (USBメモリ代を含む)	4,000円	5,000円
	懇親会費	3,000円	4,000円
	紙媒体の論文集代	4,000円	5,000円
非会員	参加費 (USBメモリ代を含む)	—	8,000円
	懇親会費	—	6,000円
	紙媒体の論文集代	—	5,000円

※1：非会員は当日受付・当日支払のみとなります。

※2：非会員の大学院生の方は、非会員の当日支払の金額となります。

※3：事前振込の場合は、大会当日に振替受領証またはそのコピーをお持ちください。

(3) 振込先（振替用紙を用いない場合）

振込先：ゆうちょ銀行

郵便局から振り込む場合

口座名称： 経営行動科学学会第20回年次大会運営委員会

口座名称（カナ）：ケイエイコウトウカガクカクツカイダイニシユウカイネンシタイカイ
ウンエイインカイ

口座記号番号： 00950-9-236798

郵便局以外から振り込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇九九店（ゼロキユウキユウ店）、店番：099

口座名称： 経営行動科学学会第20回年次大会運営委員会

口座名称（カナ）：ケイエイコウトウカガククカクツカイダイニシユウカイネンシタイカイ

口座種目：当座

口座番号：0236798

3. 領収書

領収書は受付で発行いたします。

4. 名札

受付手続き終了後、名札をお渡ししますので、大会期間中は必ずお付けください。当日参加の方は、受付横の記入台にてご所属・お名前を記入のうえご利用ください。

5. 論文集の電子化に伴うお願い

今年度の大会も、論文集のデータが入った USB メモリを参加者全員に頒布いたします。大会当日は携帯可能なコンピュータや USB メモリをコンピュータで読み込むためのアダプタなどの持参をお勧めいたします。電子ファイルの印刷は大会運営委員会では致しかねますので、紙ベースで論文をご覧になりたい方は、**10月13日（金）**までに紙媒体の論文集代をお振込みください。

会場でのインターネット環境

会場ではご自身のPC、タブレット、スマートフォン等でインターネットをご利用いただくことができます。また、大会の2日間は発表論文集をインターネットで参照いただくことができますので、ご利用になる場合はPC、タブレット、スマートフォン等をご持参ください。インターネットへのアクセス情報については学会当日の受付の際にお知らせ致します。

6. 交通・宿泊

大学近辺に駐車スペースはありませんので、公共の交通機関をご利用ください。また、宿泊先については、お手数ですが各自ご手配をお願いいたします。

7. 昼食

良心館地下1階に食堂があります。どうぞご利用ください。ただし、営業は11月4日（土）の10:00-18:30のみとなります（5日は閉店）。会場周辺には飲食店やコンビニがありますのでご利用ください。<https://goo.gl/gHvy3J>（大会当日にランチマップを配布致します。）

8. 休憩室・クローク

良心館4階 RY416、RY417 教室に休憩室を、また RY418 教室にクロークを用意しております。どうぞご利用ください。休憩室も含めて建物内は全面禁煙となっています。喫煙を希望の方は、大会当日に受付でおたずねください。

9. 総会

11月4日（土）17:20 から、良心館1階 RY107 教室で開催いたします。学会賞および大会優秀賞の表彰もこちらで行います。会員の方はご参集ください。

10. 懇親会

11月4日（土）18:45 から、寒梅館7階 French Restaurant Will で開催いたします。当日でも申込みいただけますのでぜひご参加ください（当日参加の方は、受付にてお申込みください）。

座長・発表者・代表者の方々へのご案内とお願い

1. 座長の方へ

- (1) 座長の方は、発表者と報告タイトルの紹介、タイムキーピング、コメントおよび質疑応答における司会をお願いいたします。
- (2) 担当セッションの開始10分前までに発表会場に入室いただき、発表者の出欠確認、必要な打ち合わせなどを行ってください。
- (3) プログラム上、発表者一人あたりの発表時間は「研究・事例発表」「大学院生セッション」ともに30分に設定しています。時間配分の目安は「発表者の報告20分」「座長からのコメント1~2分」「フロアとの質疑応答8~9分」となります。発表者には20分の報告時間を厳守するようお願いください。会場の大会運営スタッフが、発表開始から18分後に1鈴、20分後に2鈴、30分後に3鈴を鳴らします。なお、発表者が交代する時間の設定がございませんので、セッション内での発表の交代が速やかに行われるようご留意ねがいます。
- (4) 発表者と聴講者の双方にとって有意義な研究発表の場になるよう円滑な運営・進行をお願いいたします。特に、大学院生セッションについては、発表者が今後修士・博士論文や投稿論文の執筆など研究を進めるうえで有益なアドバイスを得られるよう、座長の皆様から会場の聴講者にその旨ご説明いただければ幸いです。
- (5) 会場からの発言者には「所属と氏名」を名乗っていただいてからご発言いただくようご指示ください。

2. 「研究・事例発表」及び「大学院生セッション」の発表者の方へ

- (1) 「研究・事例発表」及び「大学院生セッション」の発表時間は、プログラム上、一人あたり30分に設定していますが、このうち発表者ご自身の報告時間は20分です。会場の大会運営スタッフが発表者の報告終了2分前に1鈴、報告終了時刻に2鈴を鳴らしますので、報告時間が30分を超えることのないよう時間厳守にご協力ください。
- (2) パソコンは、会場に準備されています。発表者の皆様は、発表セッションの開始10分前までに発表会場に入室いただき、座長との打ち合わせやパソコンなどの機器の設定・調整などを行ってください。
- (3) パワーポイントでの発表用にパソコン（Windows 8.1、Office 2016）とプロジェクターはすべての会場に設置されています。パワーポイントを使用される方はUSBメモリにてデータをご持参のうえ、セッション開始前に各会場のパソコンにご準備ください。Mac等持ち込みでパソコンを持参される場合は、会場はHDMI接続が対応しておりますので、必要に応じ各自アダプタをご準備いただき、ご自身で設定・調整などを行ってください。発表中のパソコン操作は発表者ご自身でお願いいたします。なお、今回はOHPの準備はございませんのでご了承ください。
- (4) 会場で資料を配布する場合は、ご自身で資料を30部程度ご用意のうえ、セッション開始までに会場入口の資料配布用の机に設置してください。なお、資料の残部はセッション終了後に発表者ご自身でお持ち帰りください。
- (5) 発表者席はとくに設けませんので、ご自身が発表される時間以外は一般席にお座りください。
- (6) 発表者が欠席する場合、または発表を連名発表者による代行などに変更される場合は、必ず事前に大会運営委員会（JAAS2017doshisha@gmail.com）にご連絡ください。なお、年次大会の発表は、口頭発表と質疑応答に参加することにより正式発表として認められますので、発表者が欠席した場合には「発表取り消し」の扱いとなることをご承知おきください。

3. 「シンポジウム」代表者の方へ

- (1) シンポジウムには座長がおりませんので、シンポジウム代表者がセッションの司会進行をご担当ください。
- (2) セッションの時間は、2時間です。基調講演、パネリストの報告、フロアとの質疑応答などの時間配分は司会者に一任いたします。総時間が2時間を越えないようご注意ください。
- (3) パソコン (Windows 8.1、Office 2016) は、会場に準備されています。発表者の皆様は、発表セッションの開始10分前までに発表会場に入室いただき、パソコンなどの機器の設定・調整などを行ってください。

大会当日に発表会場で何かご不明な点がございましたら、各会場の大会運営スタッフにお問い合わせください。どうぞよろしくお願いたします。

大会運営委員会

共同委員長	藤本哲史 (同志社大学政策学部教授)
共同委員長	関口倫紀 (京都大学経営管理大学院教授)
委員	松山一紀 (近畿大学経営学部教授)
委員	田中秀樹 (京都学園大学経済経営学部准教授)
委員	古田克利 (関西外国語大学英語キャリア学部講師)
委員	細見正樹 (香川大学経済学部講師)
委員	戎谷 梓 (大阪大学大学院経済学研究科助教)
委員	今井裕紀 (同志社大学総合政策科学研究科博士課程)
委員	夏 世明 (同志社大学総合政策科学研究科博士課程)
委員	張 卓 (大阪大学大学院経済学研究科博士課程)
委員	楊 芸玥 (京都大学大学院経済学研究科博士課程)

(委員は職位および五十音順)

連絡先

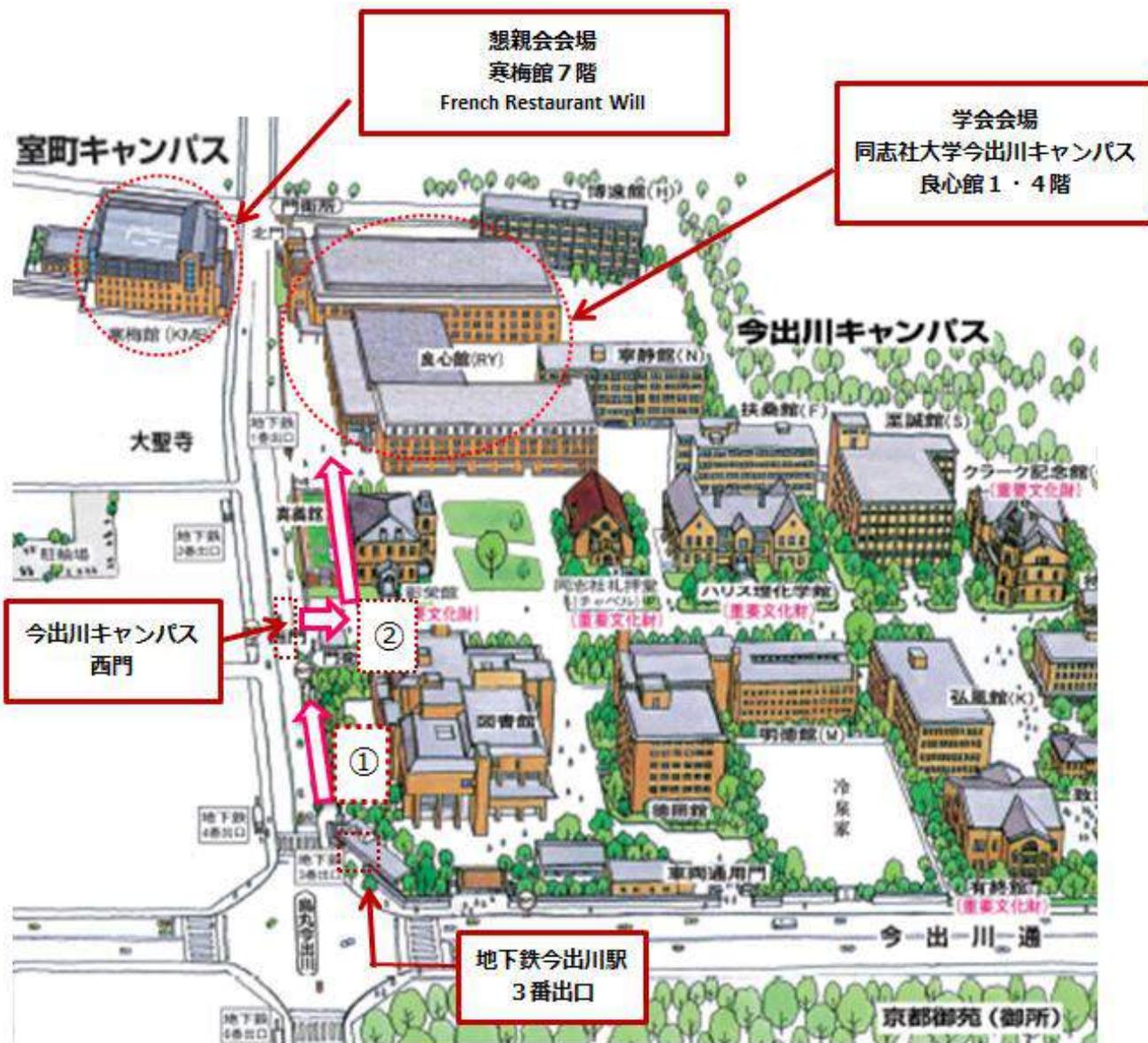
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学経営管理大学院
関口倫紀研究室内
経営行動科学学会第20回年次大会運営委員会事務局
E-mail: JAAS2017doshisha@gmail.com

経営行動科学学会年次大会の歩み

日程	開催校・場所	委員長
設立総会 1997年 11月 29日	名古屋第一ホテル	若林満
第1回 1998年 11月 21-22日	南山大学	大津誠
第2回 1999年 11月 20-21日	東レ総合研修センター・三島	高木晴夫
第3回 2000年 11月 25-26日	産能大学	森田一寿
第4回 2001年 11月 17-18日	愛知学院大学	佐野守
第5回 2002年 11月 16-17日	広島大学	田中堅一郎
第6回 2003年 11月 15-16日	筑波大学	星野靖雄
第7回 2004年 11月 20-21日	神戸大学	金井壽宏
第8回 2005年 11月 11-12日	慶応大学・日吉	渡辺直登
第9回 2006年 11月 11-12日	名古屋大学	金井篤子
第10回 2007年 11月 11-12日	立教大学	並木伸晃
第11回 2008年 11月 10-11日	中部大学	大津誠
第12回 2009年 11月 7-8日	東京工業大学	江川緑
第13回 2010年 11月 12-14日	兵庫県立大学	開本浩矢
第14回 2011年 11月 26-27日	明治大学	牛丸元
第15回 2012年 11月 17-18日	神戸大学	金井壽宏
第16回 2013年 10月 26-27日	名古屋大学	野口裕之
第17回 2014年 11月 8-9日	一橋大学	守島基博
第18回 2015年 11月 14-15日	愛知大学	星野靖雄
第19回 2016年 11月 5-6日	明治大学	城戸康彰
第20回 2017年 11月 4-5日	同志社大学・京都大学	藤本哲史・関口倫紀

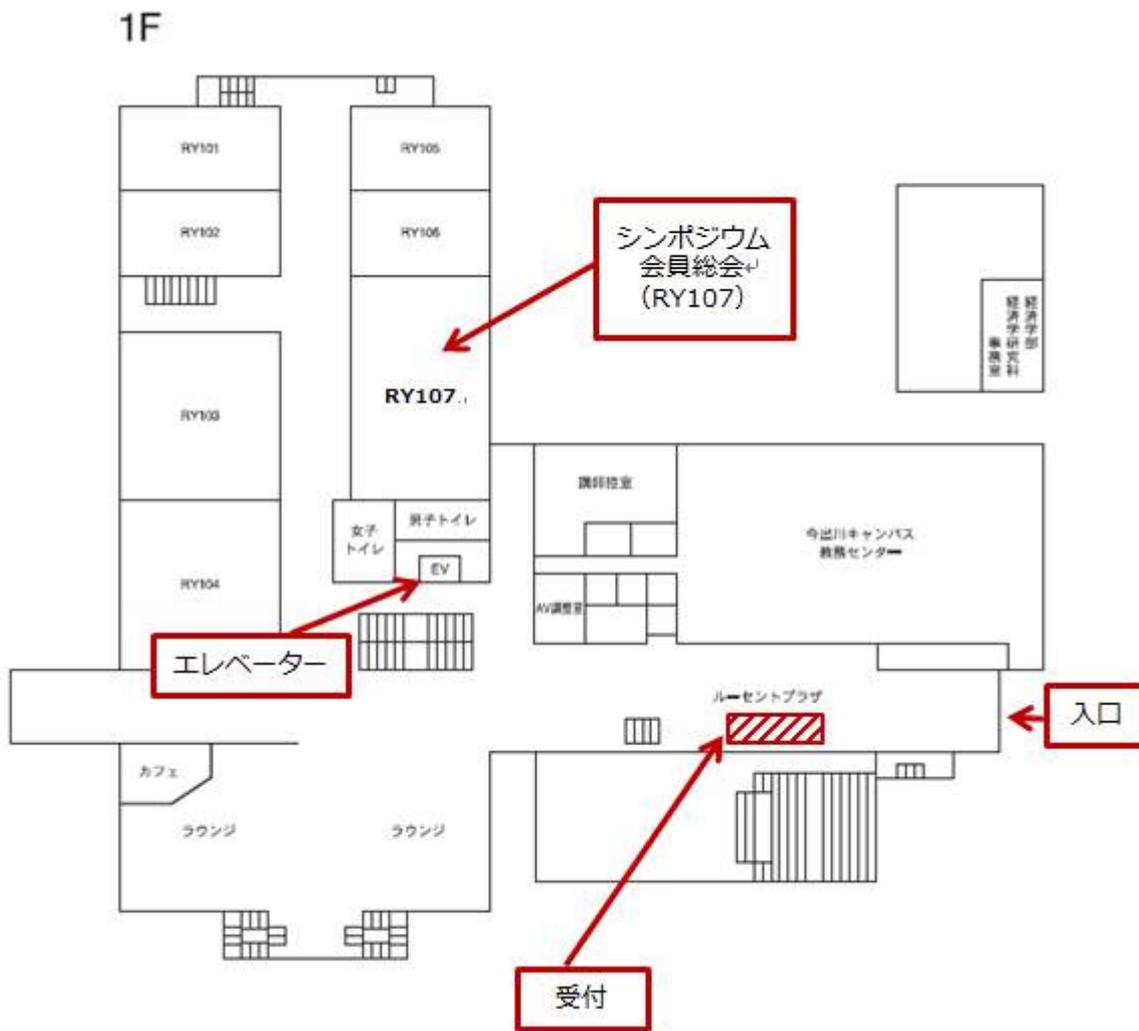
同志社大学今出川キャンパス

学会会場・懇親会会場・地下鉄今出川駅から会場へのアクセス



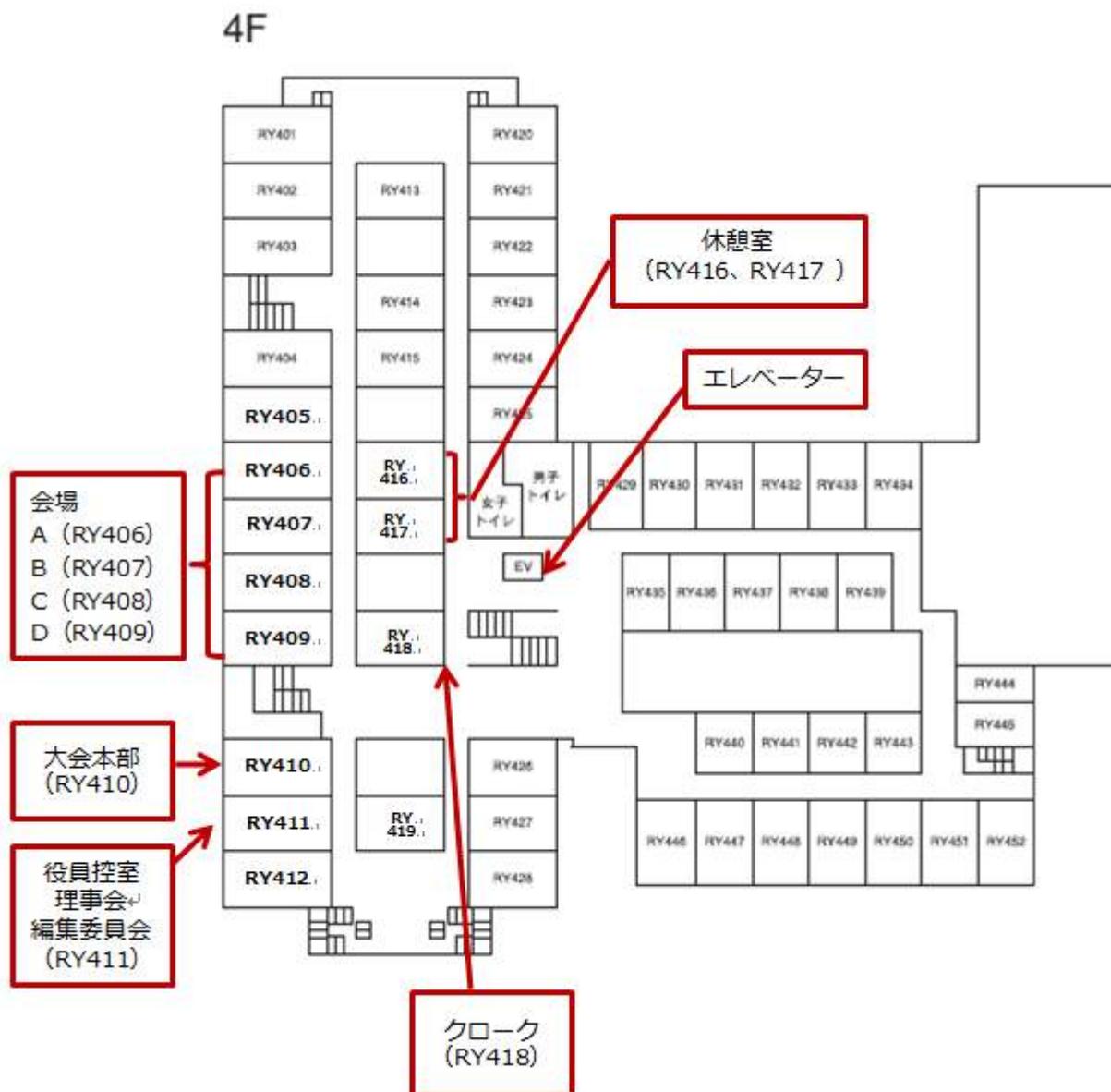
- ① 今出川駅 3番出口を出たら今出川キャンパス西門に向かってください。
- ② 西門を入ったら左折してしばらくすると良心館に着きます。

良心館 1階
受付・シンポジウム会場・会員総会会場



良心館 4階

発表会場・大会本部・役員控室・休憩室・クローク



大会スケジュール

1日目 11月4日 土曜 (受付8:30~17:20)

セッション名	セッション1 (研究・事例発表)	セッション2 (院生)	セッション3 (院生)	セッション4 (研究・事例発表)
教室	A教室 (良心館406)	B教室 (良心館407)	C教室 (良心館408)	D教室 (良心館409)
座長	外島裕 (日本大学)	西村孝史 (首都大学東京)	今城志保 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ)	松山一紀 (近畿大学)
9:00 ~9:30	渋沢栄一による大阪紡績会社の創業についての一考察—シュンペーターの企業家像とDCFに基づく事例分析 南地伸昭 (自然総研) 【01A1】	組織開発におけるアクションプランの実施・継続に関する研究— Appreciative Inquiry実施後のインタビューから見えてきたこと 多湖雅博 (院生) (甲南大学大学院) 【02A1】	キャリア・コミュニティの概念と活用方法について—老年期のキャリア危機における課題発見の場として 三宅麻未 (院生) (関西学院大学大学院) 【03A1】	働き方改革に向けた人事部門の取り組み 小出琢磨 (中国学園大学) 【04A1】
9:30 ~10:00	若年層における企業家精神の獲得— 計画的偶発性理論を用いた実証研究 細見正樹 (香川大学) 関口倫紀 (京都大学) 【01A2】	ダイアディックステークホルダーのプロジェクト活動に発生するトラブル対処プロセス 近藤秀和 (院生) (筑波大学大学院) 【02A2】	他者からの支援が能力向上に及ぼす影響のプロジェクトマネジメント経験年数による比較 三好きよみ (院生) (筑波大学大学院) 【03A2】	パートタイム労働者における勤続意思と評価処遇 井手亘 (大阪府立大学) 【04A2】
10:00 ~10:30	女性後継経営者育成フレームワークについての一試案—跡取り娘と父親の関係から 高田朝子 (法政大学) 【01A3】	企業のパフォーマンスに対する外部委託との交互作用—モジュール性と相互依存性の効果 神原浩年 (院生) (筑波大学大学院) 【02A3】	P-0 misfit (個人と組織の不適合) がもたらす組織内行動 山崎京子 (院生) (神戸大学大学院) 【03A3】	
セッション名	セッション5 (研究・事例発表)	セッション6 (研究・事例発表)	セッション7 (研究・事例発表)	研究能力強化セッション1
教室	A教室 (良心館406)	B教室 (良心館407)	C教室 (良心館408)	D教室 (良心館409)
座長	高橋潔 (立命館大学)	澤木聖子 (滋賀大学)	三崎秀央 (兵庫県立大学)	
10:40 ~11:10	倫理的リーダーシップと組織的公正の関係性に関する試論 余合淳 (名古屋市立大学) 【05A1】	ワーク・ライフ・バランスを実現するための働き方改革に関する一考察 木村三千世 (四天王寺大学) 【06A1】	技術者の能力と昇進—製造業大手企業役員経験者のインタビューをもとに 伊東幸子 (東京工業大学) 【07A1】	
11:10 ~11:40	店舗内におけるリーダーシップ機能分散化の発生条件 大塚篤 (名古屋大学) 【05A2】	ワーク・ライフ・バランスの実現と職場特性に関する研究 岸野早希 (流通科学大学) 【06A2】	研究者・技術者の海外経験が創造的行動に与える影響 田中秀樹 (京都学園大学) 【07A2】	研究能力強化セッション1 「実証研究における仮説モデルの構築 主効果(main effect)・調整(moderation)・媒介(mediation)の再検討」 林洋一郎 (慶應義塾大学)
11:40 ~12:10	中堅リーダーとしての活躍につながる若手・メインプレイヤー時代の有用な経験に関する研究 小方真 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ) 【05A3】	ワーク・ライフ・バランス支援の研修効果に関する事例研究 岸野早希 (流通科学大学) 平野光俊 (神戸大学) 【06A3】	ソーシャル・キャピタルと人材マネジメントが職場業績に与える影響—3時点データを用いた実証分析 西村孝史 (首都大学東京) 【07A3】	
12:10 ~13:30	昼食 (経営行動科学学会理事会 良心館411)			
セッション名	セッション8 (研究・事例発表)	セッション9 (研究・事例発表)	セッション10 (研究・事例発表)	研究能力強化セッション2
教室	A教室 (良心館406)	B教室 (良心館407)	C教室 (良心館408)	D教室 (良心館409)
座長	平野光俊 (神戸大学)	竹内規彦 (早稲田大学)	高田朝子 (法政大学)	
13:30 ~14:00	日本の人事担当者に求められる人材要件に関する実態—役割・適応実感との関連性に着目した調査報告 荒井理江 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ) 藤村直子 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ) 【08A1】	企業の人的資源管理システムと従業員の職務態度の関係—公正風土のマルチレベル媒介効果の検証 小林裕 (東北学院大学) 【09A1】	個人—組織適合と職務態度の関係性 大里大助 (福岡女学院大学) 高橋潔 (立命館大学) 小川憲彦 (法政大学) 【10A1】	
14:00 ~14:30	集団の混乱期を乗り越えるメカニズムのメタ的考察—3つの集団の実証研究結果のメタ分析に基づいて 丸山琢真 (明治大学) 【08A2】	戦略とHRMの一致が組織的公正に与える影響—価値観が反映されたHRMの重要性 三崎秀央 (兵庫県立大学) 【09A2】	職場の人間関係が若年者の早期離職に与える影響—関係的アイデンティフィケーションからの実証研究 初見康行 (いわき明星大学) 【10A2】	研究能力強化セッション2 「リサーチデザインの考え方」 鈴木竜太 (神戸大学)
14:30 ~15:00	中・長期的な組織目標を解釈・伝達する上司行動と心理的距離が及ぼす業務へのポジティブな影響に関する研究 濱岡剛 (広島大学) 相馬敏彦 (広島大学) 【08A3】	創造性に関する心理検査の機械採点効果—創造性思考三位一体理論におけるラテラル・シンキングの機械採点 堀上明 (環太平洋大学) 高橋潔 (立命館大学) 【09A3】	関係的アイデンティフィケーション尺度の開発—職場の人間関係を捉える新たな概念・尺度の検討 初見康行 (いわき明星大学) 【10A3】	
15:15 ~17:15	シンポジウム1 良心館107 「AI・ロボットが切り拓く未来と経営行動科学」 寺田知太 (野村総合研究所)・油谷実紀 (TIS)・松野文俊 (京都大学) 企画・司会: 関口倫紀 (京都大学)			
17:30 ~18:30	会員総会 良心館107			
18:45 ~20:45	懇親会 (寒梅館7F Will)			

【 】内には、USB内の各個人の論文発表原稿のファイル名に割り当てた数字を示す。(セッション番号—教室名—発表順で数字を割り当てている)

2日目 11月5日 日曜(受付8:30~16:00)

セッション名	セッション11 (研究・事例発表)	セッション12 (研究・事例発表)	セッション13 (研究・事例発表)	セッション14 (研究・事例発表)
教室	A教室 (良心館406)	B教室 (良心館407)	C教室 (良心館408)	D教室 (良心館409)
座長	井手 亘 (大阪府立大学)	小林裕 (東北学院大学)	田中堅一郎 (日本大学)	西田豊昭 (中部大学)
9:00 ~9:30	公共調達における正統性獲得行動の「前提」の検証—入札の経済性阻害の真因は何か 中西善信 (長崎大学) 【11A1】	進路選択とソーシャルスキルに関する考察—進路選択自己効力感、ソーシャルスキル、進路選択能力の関係 町田尚史 (岡山大学) 【12A1】	ワーク・エンゲイジメントの負の効果—私的生活への影響の男女差 細見正樹 (香川大学) 藤本哲史 (同志社大学) 【13A1】	集合研修の転移に関する実証研究4—組織ビジョン策定研修における学びと実践に関する質的分析 佐藤裕子 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ) 今城志保 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ) 宮澤俊彦 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ) 【14A1】
9:30 ~10:00	長期インターンシップによるレジリエンスの成長—職務特性に注目して 櫻木理江 (就実大学) 大倉健 (就実大学) 岩佐和典 (就実大学) 【11A2】	新規大卒者1年目の心理的な状態推移のタイプ分類—若手の状態を把握するトラッキングデータの分析 仁田光彦 (株式会社リクルートキャリア) 小路純寛 (株式会社リクルートキャリア) 【12A2】	介護職のバーンアウトを抑制する事業所の取組み—仕事上の要求—資源モデルに基づく分析 坂爪洋美 (法政大学) 佐藤博樹 (中央大学) 【13A2】	集合研修の転移に関する実証研究5—組織ビジョン策定 研修を用いた検討 今城志保 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ) 佐藤裕子 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ) 宮澤俊彦 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ) 【14A2】
10:00 ~10:30	態度・行動変容に関する実証研究—臓器提供意思表示を一例として 瓜生原葉子 (同志社大学) 【11A3】	大学生のキャリア意識形成に関する定性的研究 市村陽亮 (宮崎公立大学) 松尾健治 (熊本学園大学) 【12A3】	就業時間に関するサポートとリテンションとの関係—女性従業員を対象に 小川 悦史 (大阪経済大学) 【13A3】	
セッション名	セッション15 (研究・事例発表)	セッション16 (研究・事例発表)	セッション17 (研究・事例発表)	研究能力強化セッション3
教室	A教室 (良心館406)	B教室 (良心館407)	C教室 (良心館408)	D教室 (良心館409)
座長	林洋一郎 (慶応義塾大学)	坂爪洋美 (法政大学)	鈴木竜太 (神戸大学)	
10:40 ~11:10	経営課題としてのサイバーセキュリティ対策 本田正美 (東京工業大学) 【15A1】	知的・精神・発達障害者の雇用促進・制限要因に関する一考察—社会貢献ではなく人的資源としてのマネジメントの必要性について 村上浩崇 (株式会社三井住友銀行) 中森孝文 (龍谷大学) 【16A1】	時間的制約や試行錯誤経験と技術者の能力形成との関係 鳥取部真己 (北九州市立大学) 【17A1】	
11:10 ~11:40	従業員の自己覚知を促す企業研修による自己概念の変容—リーダーの自己概念の変容による多様化がリーダー行動におよぼす影響 (2) 田中堅一郎 (日本大学) 外島裕 (日本大学) 宮入小夜子 (開智国際大学) 坂田桐子 (広島大学) 【15A2】	日本における介護サービス組織の連携とケアの質の関係 大平剛士 (同志社大学・社会医療法人大道会) 【16A2】	ミャンマー中小企業における成長企業経営者群の特徴 種村秀和 (JICA) 【17A2】	研究能力強化セッション3 編集委員長セッション:『経営行動科学』誌に採択されるには 大塚篤 (名古屋大学)・櫻木理江 (就実大学)
11:40 ~12:10	リーダー開発における自己覚知の過程に関する事例研究—研修場面での自己の行動背景のこころのメカニズムへの気づき 外島裕 (日本大学) 【15A3】	育児休業期間におけるビジネス教育施策が復帰後のパフォーマンスに与える影響の一考察 国保祥子 (静岡県立大学) 【16A3】	専門職の顧客志向と組織の顧客志向、組織コミットメントの関連性 櫻井彦彦 (北海道薬科大学) 【17A3】	
12:10 ~13:30	昼食 (経営行動科学編集委員会 良心館411)			
13:30 ~15:30	シンポジウム2 良心館107 組織における個の『分化』と働き方改革 太田肇 (同志社大学)・本間浩輔 (ヤフー)・加藤健太 (エンファクトリー)・濱松誠 (One JAPAN) 企画・司会 松山一紀 (近畿大学)			
15:40 ~17:55	研究能力強化セッション4 良心館409 海外主要ジャーナル掲載論文の解剖学: 組織行動領域の実証研究に何が求められているのか? パネリスト 石川 淳 (立教大学)・関口倫紀 (京都大学)・鄭有希 (学習院大学) 企画・司会 竹内規彦 (早稲田大学)			

シンポジウム

シンポジウム1 (11月4日 15:10~17:10)

AI・ロボットが切り拓く未来と経営行動科学

近年、人工知能（AI）やロボットの発展が脚光を浴びています。囲碁や将棋でプロ棋士を打ち負かすAIが誕生したり、産業用のみならず災害時対応、家事、介護などの分野へのロボットの活用が進んでいたりします。一方で、将来、AIやロボットが人間の仕事を奪うことによって失業者が増えるのではないかという悲観的な見方もあります。この先、AIやロボットの発展がさらに進むならば、私たちの世界はどうなっていくのでしょうか。例えば、将来これまで以上に人間に近いAIやロボットが出現するならば、組織と人間の関係はどうなっていくのでしょうか。AIやロボットの発達によって人々が働く職場はどう変わっていくのでしょうか。その見通しの中で、学問としての経営行動科学研究は何を探求していくべきなのでしょう。本シンポジウムでは、野村総合研究所の寺田知太氏、TIS株式会社の油谷実紀氏、京都大学の松野文俊氏と、AI・ロボットの分野の第一線でご活躍をされておられる3名のゲストに話題提供をしていただき、AI・ロボットの今後の発展の見通しとその中で経営行動科学の役割について考えてみたいと思います。

企画・司会 関口倫紀（京都大学）

登壇者紹介

日本の労働力を支えるのは外国人 or ロボット？

寺田知太氏 (株式会社野村総合研究所 ビジネスIT推進部 グループマネージャー兼 2030年研究室 上級研究員)

京都大学工学研究科修士課程修了後、株式会社野村総合研究所に入社。情報通信・メディア産業における戦略立案、M&A支援に従事。Duke University Fuqua school of BusinessにてMBA取得後、先端テクノロジーがもたらす未来シナリオ、ベンチャー企業連携、デザイン思考等を駆使し、イノベーション創造の実務に携わっている。また同社の2030年研究室の上級研究員として、AI・ロボットによる労働代替可能性の研究を推進。京都大学デザインスクール非常勤講師。



少子化により労働力減少が避けられない未来の日本。AIや外国人は、果たして労働力不足を解決できるのか。野村総合研究所の2030年研究室が、オックスフォード大学や外部有識者とともに研究してきた成果を紹介する。これまでの機械化・自動化は、製造業を中心としたロボットなどの導入による、ブルーカラー業務の効率化として進んできた。しかし、機械学習アルゴリズムの革新、コンピューティングパワーの低廉化が推し進める自動化は、オフィスのホワイトカラーやサービス業に大きな影響をもたらさう。そして、業務のデジタル化と効率化が進んだ未来の職場では、人は、AIと共存することが求められる。合わせて、人に期待される能力が変化し、多様化していく可能性が高い。AIが普及した未来像は、社会や企業の選択によって様々な可能性の中から選び取るものであること、そのために今取り掛かるべきことについて考察する。

企業情報システムからみたAI・ロボット技術の現実的な活用

油谷実紀氏 (TIS株式会社 フェロー 戦略技術センター長 兼 AIサービス事業部副事業部長)

大手システム・インテグレータ企業(Sier)のR&D責任者を務める。1994年東京大学大学院人文科学研究科(心理学)修士修了後、株式会社東洋情報システム(当時)に入社し、製造業を中心にシステム構築プロジェクトに従事、2009年よりR&D部門を担当、AI・IoT時代の企業情報システムのための技術開発を推進し、17年、TISにAIサービス事業部を立上げる。北陸先端科学技術大学院大学産学官連携客員教授、一般社団法人オープンガバメント・コンソーシアム理事。



SiriやWatsonが火をつけた第3次AIブームがはじまってからすでに数年が経過しました。先進的な企業ではAIをどのように導入し活用するか、概念実証(Proof of Concept, PoC)というプロジェクトを通じて取り組みを行ってきました。その結果、現在多くの先進的な企業が考えていることは、端的に表現すると「AIは魔法ではない」というあたりまえの結論です。しかし、その一方で、それらの企業はAIに包含される要素技術のいくつかを活用して製造や販売のプロセスを改善するのみならず、所謂ホワイトカラーの生産性向上にも役立てる試みを始めています。さらに、コミュニケーションロボットにつづく自走式ロボットの登場前夜と言われる今、ロボットを企業情報システムの一部として位置づけることの必要性が叫ばれ始めています。魔法ではないAIやロボットを使って企業情報システムそして企業の現場業務をどのように変革できるのか、その道筋を展望します。

ロボット革命 ー消えるロボットを創るためにー

松野文俊氏 (京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻教授 NPO国際レスキューシステム研究機構副会長)

1986年大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程修了。大阪大学、神戸大学、東京工業大学、電気通信大学を経て、2008年から現職。主に、ロボティクス・制御理論・レスキュー学に関する研究に従事。システム制御情報学会論文賞、計測自動制御学会論文賞、情報処理学会論文賞、日本機械学会学術業績賞、日本ロボット学会功労賞などを受賞。現在、システム制御情報学会副会長。



少子高齢化社会の中の人手不足やサービス部門の生産性と質の向上という日本が抱える課題解決の切り札として、ロボットに大きな期待が寄せられている。今後の市場将来予測では、2035年にロボットの市場規模が9.7兆円になると言われている。従来の省庁縦割りの打破を目指して、内閣府主導の革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)や戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)などロボット関連大型プロジェクトが実施されている。

講演者が進めている、生物が持つ素晴らしい運動知能を理解しそれを超えるロボット創造を目指す「真理探究型研究」と阪神淡路大震災の経験から実災害対応に有用なレスキューロボットシステムの開発を目指す「目的達成型研究」を紹介しながら、ロボットが本当に社会に根付くための『消えるロボット』について考えてみたい。

組織における個の『分化』と働き方改革

同志社大学政策学部太田肇教授の近著『なぜ日本企業は勝てなくなったのか：個を活かす「分化」の組織論』（新潮選書）をベースに、日本企業において、個人が組織から未分化の状態にあることが、様々な弊害をもたらしていること、そして、個人を分化することによって、イノベーションの創出や働き方改革実現の可能性が高まることなどについて議論する。パネリストには近著『ヤフーの1 on 1：部下を成長させるコミュニケーションの技法』（ダイヤモンド社）でベストセラー作家の地位を確立された、ヤフー（株）の本間浩輔上級執行役員、ユニークな人材ポリシー「專業禁止！」を標榜する（株）エンファクトリーの加藤健太社長、そして、若手代表として、One Panasonic, One JAPANなどの取り組みが評価され、日経ビジネス「次代を創る100人」に選出された濱松誠代表をお招きする。研究者と産業人との間で熱い議論が闘わされることを期待している。

企画・司会 松山一紀（近畿大学）

登壇者紹介

組織における個の『分化』と働き方改革

太田肇氏 (同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科教授。日本労務学会常任理事)

1954年生まれ。神戸大学大学院経営学研究科博士前期課程修了。京都大学博士(経済学)。専門は組織論。とくに個人の視点から組織・マネジメントについて研究。近著『なぜ日本企業は勝てなくなったのかー個を活かす「分化」の組織論ー』(新潮選書)のほか『「見せかけの勤勉」の正体』(PHP研究所)、『個人尊重の組織論』(中公新書)など著書多数。



労働時間の長さや有休取得率の低さなどに表れているように日本人はあいかわらず勤勉である。しかし一方でワーク・エンゲージメントは世界最低の水準であり、労働生産性や国際競争力の水準も低下している。背景にはIT化などによって求められる意欲・能力が変化している現実がある。これまでよりレベルの高い意欲と能力を引き出し、それをイノベーションや企業・経済の発展に結びつけるには、個人を組織・集団から「分化」する必要がある。また「働き方改革」の本丸ともいえるべき労働時間短縮を進め、セクハラ・パワハラを防止するためにも「分化」は不可欠である。

人事制度、個人のキャリア、職場環境など多方面から「分化」の必要性和改革の方向を示したい。

企業人事の立場からみた分化の組織論

本間浩輔氏 (ヤフー株式会社 上級執行役員 コーポレート統括本部長)

1992年早大卒業後、野村総合研究所に入社。コンサルタントを経て、スポーツ・ナビゲーション (サイト名: スポーツ・ナビ、現ワイズ・スポーツ) を起業。2002年同社がヤフー傘下入りした後は、ヤフー・スポーツのプロデューサー、ピープル・デベロップメント本部長などを経て2014年より現職。神戸大学MBA (鈴木竜太ゼミ) 修了。法政大学 (ビジネススクール) 兼任教員、北海道大学大学院 (国際メディア・観光学院) 客員教授。



興味深い本だ。何冊か購入して部下の人事担当者に配布した。

「日本人が誇ってきた『助け合う力』『連帯する力』も多国に比べて劣る」「共同体の圧力が不正 (不祥事) を生む」など、「どきっ」とする記述も少なくないが、うなずけることも多いから、抵抗感なく読むことができた。

働きかた改革、その背景にある労働人口の減少という局面を迎えて、人事改革の緊急度が増している。本書が提示するこれらの課題は、気づいていながら策を講じなかった人事の「ツケ」であるが、経営課題でもある。

本書のタイトルは「なぜ日本企業は勝てなくなったのか」であるが、分化すれば、日本企業が勝てるようになるのかと問われると、それほど簡単ではない。本書において、組織を分化する方法論が提案されているが、現実的でないと思う人事担当者もいるだろう。

多くの日本企業において、人事や人事制度は「古家の造作」とも言える。これ以上、改築を繰り返して、住む人の住みやすさはどうなる? という気持ちもある。シンポジウムでの話の展開がどうなるか予想できないが、人事の責任者の視点でコメントすることができればと思う。

エンファクトリーの人材ポリシー:「専門禁止!」の背景とその実際、効用について

加藤健太氏 (株式会社エンファクトリー 代表取締役社長)

名古屋大学工学部卒、リクルートにて財務経理、経営企画マネジャーを経て、AllAboutの創業メンバーとして財務、総務、人事、広報、営業企画など裏方周りのあらゆることを担当し、取締役兼CFOとして2005年にIPO。その後、現在の株式会社エンファクトリーを新設分割し代表に就任。「自己実現ターミナルの創造」を目指し、「専門禁止!」という人材ポリシーを打ち出して、関わる人々すべての「生きるを、デザイン」を応援中。



エンファクトリーでは2011年の設立当初から「専門禁止!」と銘打って、メンバーの自律的な行動、そしてビジネスプロフェッショナルとして自立することを促してきた。

「昭和」から「平成」へ、企業や個人を取り巻く経済そして社会的環境が大きく変化し、ますます先行きが不確実、不透明さが増している中、企業と個人の関係性を大きくアップデートする必要があると考えたからである。

個人は、どう今を、明日を生きて、生きていくか、そして、企業は個人の人能力をどう集合させ、成果、業績を継続的に上げていくか、正に「働き方改革」という名のもとに問われていることであろう。

複業/パラレルワークは、そのあたりをどう捉えどう実践するかのきっかけに過ぎず、企業・個人双方の挑戦でもある。

こちらでは、「専門禁止!」を打ち出した背景から、具体的にどう実践し、個人、企業双方への効用について事例を紹介しつつ、企業でも個人でもない新たな集団「チームランサー」という考え方とそれを促進するサービスについての可能性を紹介する。

One PanasonicからOne JAPANへ

—社内活性化から日本企業の活性化への取り組み—

濱松誠氏 (One JAPAN共同発起人・代表)

1982年京都生まれ。大学を卒業後、2006年パナソニックに入社。海外コンシューマー営業、インド事業推進に従事した後、2012年に本社人事へ異動。パナソニックグループの採用戦略や人材開発領域を担当する傍ら、2012年、組織活性化をねらいとした有志の会「One Panasonic」を立ち上げる。2016年、大企業の同世代で同じ課題意識を持つ者たちを集め、有志団体「One JAPAN」を設立、代表に就任。現時点で45社・600名の有志が参画。オープンイノベーションや日本の大企業の変革に向け、取り組んでいる。パナソニック初のケースとして資本関係の無いベンチャーへの出向を経て、2017年7月より、IoT家電事業を担当。人々のより良い暮らしの実現を目指す。日経ビジネス「2017年次代を創る100人」に選出。



大企業の若手有志団体のプラットフォーム「One JAPAN」は、組織の縦割りや組織の非活性化などの大企業病を克服し、大企業を変革したいという思いから、2016年9月に生まれました。現在、One JAPANには40社を超える企業の有志団体が参画しています。各企業で、有志の勉強会や交流会が行われています。One JAPAN誕生のきっかけとなったのが、パナソニック有志の会「One Panasonic」です。One Panasonicは、2012年にパナソニック・パナソニック電気・三洋電機の一社化に伴い、若手有志を中心に発足しました。企業の課題に対し、ボトムアップで課題解決の風穴をあげようとする有志の取り組みで、交流会等を通じてクロスファンクションを促進し、一歩踏み出す個人づくり、オープンイノベーションが生まれる組織づくりを目指しています。One Panasonicに加えて、富士ゼロックスやNTTグループ、その他の大企業でも同じような動きがあり、One JAPANは生まれました。One JAPANの実現したい姿は、「日本を、より良くする。日本から、世界をより良くする」。活動の切り口としては、イノベーション、ワークスタイル、メディアの3点で、定期的開催する全体交流会・総会と、各テーマごとに分科会があります。立場や組織を越えて、イノベーションを起こす、挑戦行動を促すプラットフォームづくりのストーリーを是非聞いてください。

研究能力強化セッション

本大会では、会員の研究能力の向上を目的として経験豊富な先生方による4つの魅力的な特別セッションを準備いたしました。11月4日のセッション1およびセッション2は、研究を実践していく上での基本でもあるリサーチデザインおよび仮説モデルに関する内容を扱います。11月5日のセッション3およびセッション4では、査読付き学術雑誌に論文を掲載させることを念頭に置いた形で、優れた研究の条件や論文の執筆方法を扱います。

今後研究能力を高めていきたい若手研究者から、さらに研究能力に磨きをかけたいベテラン研究者、若手研究者を育成する立場にある先生方まで、幅広い方々の参加をお待ちしています。

研究能力強化セッション1 (11月4日 10:40~12:10)

実証研究における仮説モデルの構築

主効果(main effect)・調整(moderation)・媒介(mediation)の再検討

林洋一郎 (慶應義塾大学大学院)

本セッションは、経営行動科学学会の皆さんには自明のことかもしれませんが、「仮説」について改めて考えてみたいと思います。論文を読んでいると様々な仮説を目にしますが、そこには一定の型やモデルがあることに気づかされます。本セッションは、基本的な型やモデルを表す概念として主効果(main effect)、調整(moderation)、媒介(mediation)の3つに注目します。

当日は、主効果、調整、媒介という3つの考え方を説明するとともに、調整媒介モデル(moderated mediation)などの発展モデルについても取り上げる予定です。また、実際に論文に記述する際の表現についても、実際の研究事例を引用しながら考えてみたいと思います。

さらに、調整、媒介、調整媒介モデルをどのように分析するかについてもセッション担当者の分かる範囲で取り上げる予定です。

なお、担当者の専門は、社会心理学や産業・組織心理学です。よって、取り上げる研究や内容が経営学ではなく、心理学に寄ってしまう可能性があります。その点にご留意をください。

研究能力強化セッション2 (11月4日 13:30~15:00)

リサーチデザインの考え方

鈴木竜太 (神戸大学)

このセッションでは、研究のスタート段階のリサーチデザインの考え方についてワークショップ形式で進めます。①問いの立て方、②調査デザインの2つについて、議論と講義を通じて考えていきます。リサーチデザインにおいて最も重要なことの1つは、良い問いを立てることです。良い問いがなければ良い研究にはなり得ません。しかしながら問いが生み出されてくるプロセスは、当事者でなければ知る機会がほとんどありません。良い問いを考えるポイントやそれと結論を結びつける調査のデザインについて参加者とともに考えていきます。

実際に今研究の立ち上げ段階の人、これから研究を立ち上げるつもりの人、あるいは論文指導を行う必要のある人にとって直接参考になることはもちろんですが、研究的思考の一部を垣間見る機会になることを期待します。

研究能力強化セッション3 (11月5日 10:40~12:10)

編集委員長セッション：『経営行動科学』誌に採択されるには

犬塚 篤（経営行動科学学会機関誌編集委員長，名古屋大学大学院経済学研究科）

櫻木 理江（事例論文提供者，就実大学経営学部）

編集委員長を務めるなかで、本学会のレビュー・システムを前に、弓折れ矢尽きる若手研究者の姿を見てきた。不採択になる論文には共通のパターンがある。そこで本セッションでは、『経営行動科学』誌の査読の実態を報告した上で、本誌に実際に投稿された論文を事例としながら、論文投稿をする上での留意事項、論文改訂の方向、レフェリーコメントの対応方法などについて討議する場を設ける。『経営行動科学』への投稿を考えている若手の研究者はもちろん、普段レフェリーとしてご協力いただいている先生方にもご参加いただき、有益な時間としたい。

■注意■ 本セッションへの参加は、討議する論文に事前に目を通していただくことを条件とします。参加を希望する者は、論文を送付するので10/31までに本学会機関紙編集委員長・犬塚 篤 inu @ soec.nagoya-u. ac. jp) へ連絡すること（注：スパム防止のため、アットマーク @ やピリオド . は、大文字にしてあります。ご連絡の際は小文字に差し替えてください）。なお、参加者多数の場合は先着順とし、参加をお断りすることがあります。

研究能力強化セッション4 (11月5日 15:40~17:55)

海外主要ジャーナル掲載論文の解剖学：

組織行動領域の実証研究に何が求められているのか？

パネリスト： 石川 淳（立教大学 経営学部）
関口 倫紀（京都大学 経営管理大学院）
鄭 有希（学習院大学 国際社会科学部）
企画・司会： 竹内 規彦（早稲田大学 大学院経営管理研究科）

本セッションでは、組織行動領域における海外主要ジャーナルに受理・掲載された「実証研究」論文の著者にご登壇いただき、①著者による論文解説、②論文投稿から採択までの体験談、及び③本セッション参加者を交えた全体討議をもとに、国際的に評価される実証研究に何が求められているのかを探る。

第1報告には、我が国を代表するリーダーシップ研究者のお一人、石川淳氏に、研究開発チームにおける変革型及びシェアド・リーダーシップの有効性に関する論文（*Asia Pacific Journal of Management* 掲載）を解説いただく。

第2報告には、海外主要ジャーナルでアソシエイト・エディターもお務めの重鎮、関口倫紀氏に、組織変革の文脈における従業員のジョブ・クラフティングに関する論文（*Journal of Applied Behavioral Science* 掲載）を解説いただく。

第3報告には、組織行動研究の若手のホープ、鄭有希氏に、個人及び組織のキャリア・マネジメントの役割を個人のライフステージの違いから説明した論文（*Human Relations* 掲載）を解説いただく。

司会は、竹内規彦が務め、報告後には会場の参加者を交えた全体討議を行う予定である。

本大会の開催にあたり
下記の団体・企業からご協賛をいただきました。
深く感謝し、御礼申し上げます。

株式会社 北大路書房

株式会社 創成社

株式会社 中央経済社

株式会社 ナカニシヤ出版

株式会社 白桃書房

八千代出版株式会社

株式会社 有斐閣

株式会社 リクルートマネジメントソリューションズ

(敬称略 50 音順)